

教育いちかわ

教育の共有化と5つのキーワード

1. 確かな学力を育成します
2. 豊かな人間性を育みます
3. ヘルシースクールを推進します
4. 安全・安心を確保します
5. コミュニティサポートを充実させます

発行 市川市教育委員会
〒272-8501 市川市八幡1-1-1
TEL 334-1111

企画編集 市川市教育センター
〒272-0015 市川市鬼高1-1-4
TEL 320-3335
FAX 320-3352

言葉を見つめ直すことの大切さ 美しい日本語でひびき合う心 ~ シリーズ 其の貳 ~

豊かな人間性

豊かな人間性を育成するための取り組み「美しい日本語でひびき合う心」について、夏に行われた講演会、



講演会
「気になる日本語」

8月28日(火)市川市市民会館において、日本学生支援機構理事長で前筑波大学学長の北原保雄氏の講演会が開かれました。北原氏は、「問題な日本語」「達人の日本語」等の著者であり、「明鏡国語辞典」の編者としても有名です。

当日は厳しい残暑にもかかわらず、482人の先生方や保護者の方の参加があり、あらためて、日本語への関心の高さとその乱れに対する危機意識の強さを感じさせられました。講演で北原氏は、昨今「全然いい」「っていうか」「みたいな」など、問題のある日本語が氾濫していること、ひらがなの市名に加えて「南アルプス市」のようにカタカナの市名も生まれ、人名等も含めて命名の自由度が増してきていることなどの外に「気になる日本語」のさまざまな事例について、ユーモアを交えながら解説されました。

「大事なものは、言葉に敏感になることです。良い言葉を重ね、悪い言葉に注意を払うということの積み重ねが言葉美男子・言葉美人への道となります。言葉の勉強は、生涯学習です。私も勉強します。皆さんも言葉に疑問を持つ生活を続けていってください。」と、結ばれた言葉が印象的でした。

さて、各学校と教育委員会が推進する「美しい日本語の使い手の育成」は、もう一つの重点施策である「母語としての国語力の向上」と対になっています。「母語としての国語力の向上」では、すべての教科における言語活動(聞く・話す・読む・書く)の充実を図り、論理的な思考力や表現力を高めること、言い換えると正しい日本語の使い手を育てることを目標としています。それに対して「美しい日本語の使い手の育成」では、国語力の向上と併せて、感性や情緒を磨き、他への思いやりの心を育むことを目指しています。

児童生徒にそれらの力を身につけさせるには、講演会後に頂いたアンケートの回答にも数多く書かれていたように、「良書をたくさん読ませる」「豊富な語彙を身につけさせる」「私たち大人が手本となる日本語を使う」「書道、短歌、俳句、能、狂言などの伝統文化に親しませる」ことが必要であると考えています。「人や自然、生あるものすべてを思いやる心から発する言葉は、きっと美しい

風の音や虫の音等を言葉として感じ取り、夜の明ける様を東雲(しののめ)、暁(あかつき)、曙(あけぼの)、朝(あした)と使い分け、「おかげさまで」と自分の努力の成果さえも、相手や他からの恩恵であると心配りをした私たち日本人。その感性や品格こそ、これからの時代を生きる子どもたち、そして私たちに、強く求められているものなのではないでしょうか。

かくれた漢字がわかるかな? 下の写真は、第六中学校の図書室にある掲示板です。



季節にふさわしい言葉
生徒たちの力作

図書委員会では、毎月の活動の中で「その月にふさわしい季節の言葉」を紹介しています。同時に、「ことばクイズ」と題してテーマを決めてクイズを作成し、その元となった本の紹介をしています。図書室を訪れた生徒は、よく掲示物に目をやっているようです。この他にも、校内の掲示板に有名な詩を取り上げて紹介しています。

第六中学校では、この取り組みを更に広げて、各学年の具体的な活動に

つなげていきたいと考えています。

8月21日(火)市川教育会館において、第八中学校ブロック(第八中・平田小・鶴指小・大和田小)の教職員対象の研修会が行われました。4校合同での「美しい日本語の使い手の育成」の取り組みです。

当日の参加は、約80名。日ごろ使っている言葉を見つめ直すことに着目した、活動あり講義ありの演習形式の研修会となりました。

講師は、話し方研究所取締役指導部長の内山辰美さんです。教師にとってのコミュニケーションのポイントを具体的な例をあげながら伝えてくださいました。「相手の気持ちを聞くことは、相手との人間関係を深める」「言葉を見つめながら自分自身の今を見つめることが大切」「聞き上手への道は、挨拶・安心感・笑顔・明るさ・本音トーク」など示唆に富んだお話が聞けました。

演習では、聞き上手になるための3つの聞き方(ネガティブ・ポジティブ・アクティブ)を実践しました



表情豊かに聞く「聞き上手」を体験

コミュニティサポートの推進

コミュニティサポート主任夏季研修会を開催!

(学校地域連携推進研修会)

小・中学校区に設置されている「コミュニティサポート委員会」は、今年度も「学校・家庭・地域」の連携のもと、各地域で子どもたちのための話し合いが進んでいます。

このような中、去る7月26日(木)、「コミュニティサポート主任夏季研修会(学校地域連携推進研修会)」が市川教育会館で開催されました。



田中学校教育部長



員会関係者など地域の方々も出席されました。研修会では、講師に田中庸恵学校教育部長を招き、「学校の活性化を図るためのコミュニティサポートの役割とは」をテーマに、講義や演習が行われました。また、「学校・家庭・地域の連携を通して得るもの学ぶもの」をテーマに進められたパネルディスカッションでは、佐藤博彰氏(市川市PTA連絡協議会会長)、角谷好枝氏(八中ブロックコミュニティクラブ事務局長)、嶋田信子教頭(信篤小学校)、藤井義康教諭(第五中学校)、吉野和雅副主幹(市川市教育委員会)の5人の方をパネラーとして招き、具体的な実践例を交えて討議していただきました。 [地域教育課]

ジュニアリーダー講習会・ヤングカルチャースクール

わんぱくセミナー冒険キャンプ

豊かな人間性

合同トレーニングキャンプ



野外炊事場の前に全員集合、みんな揃ってハイチーズ

見てく ださ
い、みんなのこの笑顔！8月7日(火)～10日(金)、静岡県立朝霧野外活動センターにて、ジュニアリーダー講習会・ヤングカルチャースクールの合同キャンプを行いました。

日本キャンプ協会の針ヶ谷雅子先生を講師にお招きし、市内の中学生31名・高校生8名、それに大学生・社会人リーダーなどを含め総勢58名が参加。プログラムもキャンプファイアーはもちろん、サイト内を使ったイニシアチブゲームや、クッキングコンテストなど盛りだくさん。

メインイベントは3日目、毛無山登山・シャワークライミング・マウンテンバイク・本栖湖サイクリング・朝霧大迫跡ウォークラリー・酪農体験と6つのコースから選択するお好みプログラム！報告会も行い、どのコースも楽しい思い出がたくさんできました。

素晴らしい施設、恵まれた天気…心に残る充実した4日間の体験！
[青少年育成課]



みんなで力を合わせて、テント作り

8月21日(火)～23日(木) 柏井の市民キャンプ場で、市内小学校5・6年生83名と40名近くのリーダー・スタッフが参加して、わんぱくセミナー冒険キャンプを実施しました。

講師は日本キャンプ協会の石原朝子先生と行徳小学校の富田利明先生です。テント設営から

野外炊事・自然の家までのウォークラリー・スタンプ大会・ゲーム大会など、参加者全員で協力しての活動が目白押し！最終日はそれぞれで活躍したグループの表彰も行われ、みんな満面の笑みを浮かべていました。

友だちもたくさんでき、最後は別れを惜しむ場面も…夏の暑い日差しが照りつける中、楽しい思い出がいっぱいつまった3日間でした。
[青少年育成課]

各学校の特別支援教育への取り組みを支援 市川市巡回指導職員を配置

確かな学力

今年度から今までの「特殊教育」に変わり、「特別支援教育」がスタートしました。

各学校では、個別の配慮が必要な児童生徒に対する指導を充実させるため、推進役である特別支援教育コーディネーターを中心に校内体制を整えているところです。

市川市教育委員会では、各学校の特別支援教育への取り組みを支援するために、今年度から市川市巡回指導職員を配置しました。巡回指導職員は、各学校を巡回し、学校からの相談に応じています。

例えば、「落ち着きがなく授業中じっとしてられない」「友だちとトラブルを起こしやすい」「特定の学習が苦手」のような相談が寄せられています。

巡回指導職員は、このような相談に対して、児童生徒の理解の仕方、指導内容などについて提案しています。
[指導課]

もう一つの家族、中学生海外派遣事業

～ 16名の代表が ドイツに派遣される ～

豊かな人間性

今年で5回目となるドイツ・ローゼンハイム市への「中学生海外派遣事業」が終了しました。

現地ではホームステイをし、生徒たちは、湖へ行ったり山登りをしたり、オーストリア、フランスなどの国境を越えているいろいろな所へホストファミリーに連れて行ってもらったそうです。現地校におけるグループ学習では、ドイツの生徒と一緒に、「ドイツと日本の地理」「典型的ドイツ人と日本人」「ドイツと日本の学生の学校生活と放課後」「日本のマンガ」についてドイツ語と英語でまとめました。また、日本にいるときに調べておいた課題学習では、「ドイツの日常生活(食事)と遊園地」「バウムクーヘン」「環境破壊防止のための具体的な取り組み」「日本とドイツのマナーの比較」についてグループごとに発表しました。

最後の夜のさよならパーティーでは、生徒たちが中心になり、歌とゲームで盛り上がりましたが、ホストファミリーとは、お互いが抱き合いながら、涙のお別れとなりました。帰国後の研修会やアンケートでは「ドイツ語を勉強したい」「国際科がある高校へ行きたい」などの感想が述べられ、今後の目標を持つことができました。

この事業の体験をとおして、世界各地で起きている事を見聞し、グローバルな視点で、考えることができる社会人に育ってほしいと思います。
[指導課]



メートヒエン・リアルシューレ校正門横にて

豊かなアイデア 地道な研究

確かな学力

～市川市児童生徒科学展～

9月8・9日(土・日)に現代産業科学館で「市川市児童生徒科学展」が開催されました。市内の小・中学生が夏休みにまとめた「科学論文」や、作製した「科学工夫工作」「標本」など計660点が展示されました。

今年は、2日間で3,411人の来場者がありました。じっくり自然と向き合って書かれた論文、よく考え工夫を凝らした楽しい作品、丁寧に仕上げられた標本など訪れた人たちは、豊かなアイデアや地道に取り組んだ研究内容に感心していました。
[指導課]



お知らせ

市川市児童生徒音楽会	市川市こども作品展・新聞展
11月15日(木)16日(金)	11月15日(木)～18日(日)
9:10開場 9:20～16:00	9:30～17:00 (入場は16:45まで)
市川市文化会館(大ホール)	市川市文化会館(展示室、大会議室)
市立小・中・特別支援学校の児童生徒4,000人がそれぞれ合唱・吹奏楽・管弦楽等で参加します。招待演奏にはオーボエ独奏の荒絵里子さん、金管七重奏のこけももセブテットの出演を予定しています。 [指導課]	市立幼・小・中・特別支援学校の図画工作・美術、技術・家庭、書写、新聞、学校園写真の日頃の学習成果を展示します。 [指導課]

少年自然の家 リニューアルオープン

豊かな人間性

★ オープン以来の宿泊者 2ヶ月で3000人 !!

市川市少年自然の家は、昭和57年から25年間、市川市唯一の宿泊ができる教育施設として市民の皆さん、並びに学校関係者の方々に支えられ歩んできました。



昨年9月より、施設の老朽化の改善と、より一層の活動の充実を図るための改修工事を進めてきました。

多方面から協力をいただき、7月1日(日)、リニューアルオープンすることができました。

今回の改修では、宿泊者全ての方々にご利用いただく1階玄関、ロビー、廊下、風呂等をきれいにしました。また、2階の5室をバリアフリー対応型・家族・小グループ用宿泊室に全面改修し、その他にも空調設備等など部分的な改修も行いました。



1階ロビーの様子 バリアフリー対応型 風呂(中) 宿泊室(右)

リニューアルオープンより2ヶ月間で、宿泊3,039名、日帰り671名と多くの方々にご利用いただきました。

主催事業につきましても、大町の自然環境、施設の特色を生かした事業を幅広く取り入れ、年間で17事業を35回にわたり展開するよう進めています。また、対象年齢にも幅をおき、市川市の生涯学習の場としても有効的に活用していただけるよう計画を立てていきます。

少年自然の家は、これからも青少年教育施設としての使命を果たしつつ、利用者の皆さん全てに親しまれ、信頼いただける施設として充実させていきたいと考えています。 [地域教育課]

コミュニティクラブ 実践紹介

豊かな人間性

ホップステップキャンプ ~ 妙典中ブロック ~



多くの子どもたちが参加

夏休みも終わりに近づいた8月25日(土)に塩焼小でキャンプが行われました。キャンプでは地域の自治会等の協力によってキャンプファイヤー、ギター演奏、サッカー教室など様々なイベントが行われ、参加した子どもたちはみんな大喜びでした。また、高学年の子どもたちはカレーライス作りを手伝い、その味はまさに絶品でした。夜は体育館でグッスリと・・・のはずが、つつい話に夢中になって、遅くまで起きていた楽しいキャンプでした。

ねぎぼうず祭り ~ 高谷中ブロック ~



浴衣姿での演奏に聴き入る人たち

毎年行われている「ねぎぼうず祭り」が今年も高谷中を会場にして賑やかに行われました。

オープニングでは信篤小、二俣小、高谷中の児童生徒による演奏がお祭りの雰囲気を一っそう盛り上げました。また、かき氷、焼きそば等の模擬店やゲームコーナーなどがあり盛況でした。午後の短い時間でしたが、1000人も人が集まる地域に根づいた楽しいお祭りとなりました。 [地域教育課]

稲刈り頑張ったよ～!!

稲刈り体験(稲刈り・オダ掛け)



稲刈りの様子

オダ掛けの様子

豊かな人間性

9月15日(土)快晴の中、稲作体験事業「市川米っくらぶ」の稲刈りが行われました。稲の生育が早かったため、当初予定していた23日より1週間早めて稲刈りを行いました。このため、運動会等の都合で参加できない方もいましたが、当日は、132名の親子が参加しました。

鋒崎生涯学習部長より励ましのあいさつがあり、米っくらぶの役員さんから稲の刈り方や束ね方の指導を受け、4班に分かれて田んぼへ向かいました。

参加者は稲刈りが初めてという人がほとんどで、初めて見るギザギザの稲刈鎌を持つ手も恐る恐るでした。ノコギリのように切っている子や稲穂だけ刈っている子もいました。大人だって四苦八苦、なかなか稲を束ねられず中には蝶結びにしているお母さんも...

それでも、楽しくにぎやかに3時間の作業が無事終了!...のはずが、みんなで稲を掛けた水路側のオダが午後に風で倒れる事態が発生してしまいました。オダに「筋交い」をしなかったのが原因とのことで役員さんと事務局で作り直しました。

みんな汗だくになり頑張った稲刈りでした。 [地域教育課]

暑かった! 楽しかった! 「きらきら体験留学」

豊かな人間性

本年度の「きらきら体験留学」を、7月下旬に東京都奥多摩地域、8月上旬に新潟県奥阿賀地域において、それぞれ実施しました。奥多摩地域は3泊4日の日程で13名が参加、奥阿賀地域は5泊6日の日程で、12名が参加しました。



この事業は、学校に行きづらいなど何らかの課題を持つ子どもたち、大自然の中で新しいことにチャレンジしてみたいと考えている子どもたちを対象に、平成16年度から実施しています。

東京都奥多摩地域では、日原鍾乳洞の見学、巨樹の森での登山、溪流での釣りや川遊び、うどん打ち、すいか割りや花火などを体験しました。

一方、新潟県奥阿賀地域では、農家民泊体験を中心とし、参加者は4軒に分かれ、農家の方と家族同様の生活をする中で、「農業体験」や「かじか捕り体験」などをしました。また、参加者全員での

活動としては、雄大な阿賀野川でのラフティング体験やカヌー体験、農家の方と一緒に団子作り体験や押し寿司体験などを行いました。参加した子どもたちは、普段の生活の中ではなかなかできない体験に目を輝かせながら、のびのびと活動しました。

奥多摩・奥阿賀ともに、地元の方と一緒に参加した仲間とのふれあいを通して、子どもたちも、一段とたくましくなりました。

また、大自然の中での様々な体験を行う中で、協力することや最後まであきらめないことの大切さを感じたことと思います。

有意義な時間を過ごすことができました。 [教育センター]

開かれた学校をめざして オープン・スクール・デー11月～3月

【小学校】

は11月～3月の予定なしのところ

Table with 4 columns: 学校名, 公開日, 時間帯, 内容. Lists various elementary schools and their open school activities.

【中・特別支援学校】

は11月～3月の予定なしのところ

Table with 4 columns: 学校名, 公開日, 時間帯, 内容. Lists middle and special support schools and their open school activities.

お知らせ 平成20年度 市川市立小・中・特別支援学校「学校評議員候補者」募集について. Recruitment notice for school council members.

歴史博物館 展示と講演会のお知らせ. Museum exhibition and lecture notice.

自然博物館 季節ごとの風景を楽しみながら気軽に散策します. Natural history museum notice about seasonal walks.

考古博物館 体験学習「土器をつくろう」(全4回). Archaeology museum pottery-making workshop notice.

市内の各公立小・中・特別支援学校では、「地域に開かれた学校づくり」の一環として、自校の教育活動を保護者だけでなく、地域住民の皆様にも見ていただくこと「オープン・スクール・デー」を開催しています。